

1 災害への備え

災害はいつ起こるかわかりません。いざというときにあわてないように、あらかじめ家族や身近な人と話し合っておきましょう。

家庭の防災会議を開こう
家族全員で定期的に防災会議を開き、災害を想定して、自分の身を守る方法やわが家の安全対策、避難の方法、緊急時の連絡方法などを話し合います。

<p>テーマ 役割分担を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常持出品の点検など日常の予防対策上の役割と、消火や出口の確保などの地震発生時の役割の両方を決める 家族に高齢者や障害者、乳幼児、病人などいる場合は、だれが助けるか決める 	<p>テーマ わが家の危険箇所をチェックする</p> <ul style="list-style-type: none"> 家具や冷蔵庫などの転倒防止やガラスの飛散防止など家の中の安全点検をする 家具の配置換えを行い室内に安全なスペースを確保する 出入口や通路に物を置かないようにして出口を確保しておく ブロック塀やプロパンガスボンベ、廊下で落ちそうな物、風で飛びそうな物など家のまわりの危険箇所の点検と補修をする 	<p>テーマ 非常持出品をチェックする</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族構成を考えて必要な物品がそろっているか確認する 飲料水や非常食、電池は、定期的に保存状態や使用期限を確認し取りかえる
<p>テーマ 家庭の防災会議のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火器の置き場所の確認や使用方法を覚える 救急医薬品の点検や補充、応急手当の方法を知っておく 	<p>テーマ 防災用具などを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火器の置き場所の確認や使用方法を覚える 救急医薬品の点検や補充、応急手当の方法を知っておく 	<p>テーマ 近所の高齢者などを覚えておく</p> <ul style="list-style-type: none"> 近所の一々暮らしのお年寄りなどをふだんから確認しておく 自治会に入っておく
<p>テーマ 避難場所や避難経路の確認をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所を確認しながら、避難経路を複数決めておく 避難場所までの経路を家族全員で下見し、危険箇所などを確認する 	<p>テーマ 緊急時の連絡方法を覚える</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族が離ればなれになったときの連絡方法を確認する 災害用伝言ダイヤル「117」や「災害用伝言板」の使い方を覚えておく 	<p>テーマ 避難の順序</p> <p>発災 → いっつき避難場所 → 広域避難場所 → 指定避難所 → 避難生活</p> <p>津波の恐れがある時は、まず高台などの安全な場所へ避難</p> <p>避難所 風水害など、被災地域が限定的なときは、地区会館などを使って避難所を開設します</p>
<p>テーマ 住宅を耐震化しよう</p> <p>町では昭和56年5月以前に着工された住宅の耐震診断や補強工事を受ける場合の費用を助成する制度を設けています。</p> <p>お問合せ先：都市計画課</p>		

2 災害への備え

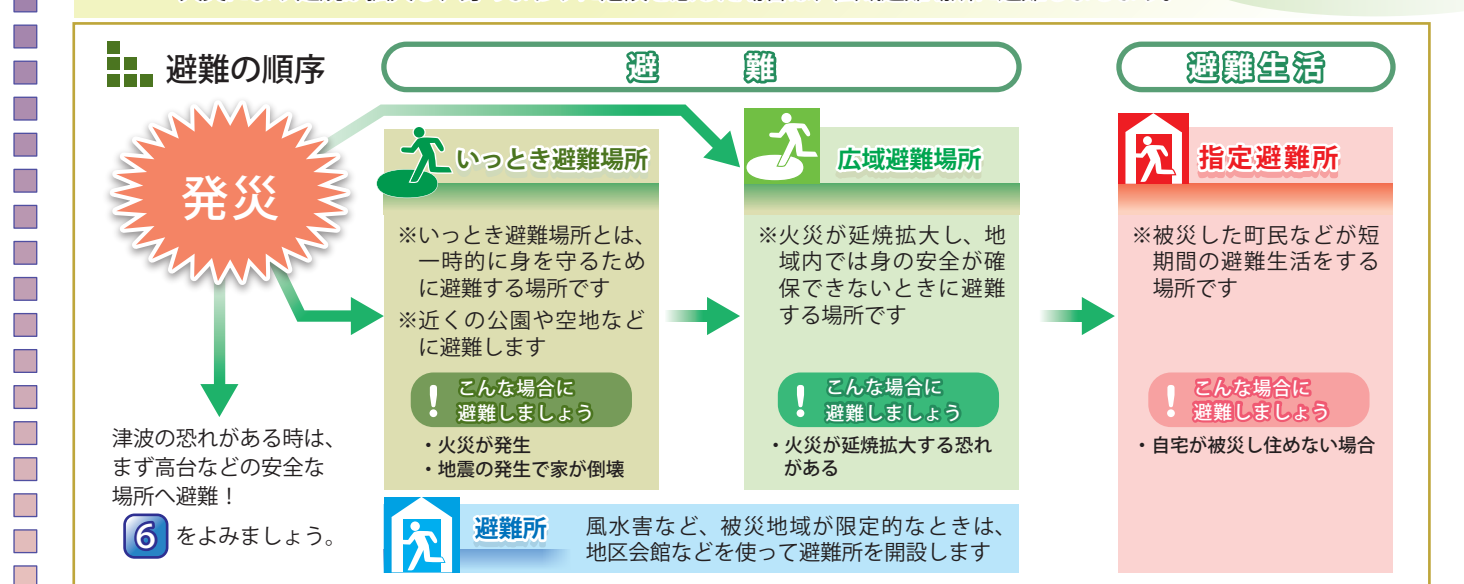
家の中や外の危険箇所をチェックしよう

- 家の中に、家具のない安全なスペースを確保する**
・人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置くか、配置換えて安全なスペースを確保する
- 寝室や子ども、高齢者、病人がいる部屋には倒れそうな家具を置かない**
- 家具の転倒や落下を防止する対策をとる**
・なるべく家具と壁や柱の間の空間を無くし、L型金具や転倒防止器具で固定する
・飲料水や非常食、電池は、定期的に保存状態や使用期限を確認し取りかえる
- 出入口や通路には物を置かない**
- 屋外のチェック**
・ベランダの植木鉢などは落ちる危険がある場所には置かない
・ベランダからでも避難できるよう常に整理整頓する
・窓ガラスには、飛散防止フィルムを貼る
・屋根がわらのひび割れなどは補修・補強する
・アンテナはしっかりと固定する
・プロパンガスボンベは、鎮でしっかりと固定する
・ブロック塀を点検し、土中にしっかりとした基礎部分がないものや鉄筋が入っていないものは補強する。ひび割れや傾き、鉄筋のさびがある場合は修理する

避難の心得

どんなときに避難するのか
町や防災関係機関から避難勧告・指示がでたときは、指示に従ってすばやく避難しましょう。

自分で判断して
・身の回りに地震を感じたときは、自らの判断で避難しましょう。
・周りの建物倒壊や傾斜地などの崩壊が生じている場合には、安全な場所に急いで避難しましょう。
・大雨や集中豪雨で、土砂崩れやけがれなどの危険がある場合は、早めに避難しましょう。
・火災により延焼が拡大し、身のまわりに危険を感じた場合は、広域避難場所へ避難しましょう。



住宅を耐震化しよう
町では昭和56年5月以前に着工された住宅の耐震診断や補強工事を受ける場合の費用を助成する制度を設けています。
お問合せ先：都市計画課

3 地域で災害に備えよう

大地震や風水害等の災害が発生したときは、建物の倒壊、火災の発生、ライフラインや道路の寸断などが予想され、町や消防などの公的な防災関係機関だけでは対応に限界があります。そのようなときに大きな力を発揮するのが、地域住民の活動です。いざというときに力を発揮できるように、日頃から地域のみんなで防災活動に取り組むことができるよう、自主防災組織で備えよう。

自主防災組織の活動
住民自身が自発的に地域で災害に立ち向かうための防災組織で、平時には災害に備えた組織づくりや防災意識の啓発、実践的な訓練の実施、危険箇所の点検、防災資機材の整備などを行います。災害時には、地域内の安全確保として初期消火、救出・救護、避難誘導、情報収集などを行うとともに、避難所の運営などの活動も行います。

平常時の活動
防災知識の普及
住民全員が防災に関する正確な知識を持つことができるように、催しなどを行い継続的に防災知識の普及を図りましょう。

防災訓練の実施
いざというときに的確な行動を起こせるように、繰り返し訓練を行い、行動を身につけましょう。

危険箇所の把握
発災時に被害の発生や拡大の原因となるような危険箇所を確認しておきましょう。

防災資機材等の整備
地域の実情に応じて、災害時に活動するために必要な機材を準備し、防災倉庫などに保管しておきましょう。

災害時要援護者の把握
災害時に避難が困難な高齢者や障害者などの災害時要援護者を把握し、支援方法などの確立に努めましょう。

自主防災組織体制の確立
災害時における役割分担など、確実に機能できる組織づくりをすすめましょう。

災害時の活動
初期消火
安全を確保しつつ初期消火を行い、火災の拡大を防ぎます。拡大して危険になった場合には、活動を中止し避難しましょう。まず自分の身を守る事が大切です。

避難誘導活動
災害時要援護者の避難に協力して、全員が安全に避難できるよう避難場所や避難所に誘導します。

救出・救助活動
防災資機材を活用し、周囲の人の協力を求め、負傷者等の救出・救助活動を行います。負傷者には応急手当をして救護所に搬送しましょう。

情報の収集
被害状況や火災の発生状況などをとりまとめるとともに、防災関係機関からの災害に関する正しい情報を入手します。

災害応急対策への協力
給食、給水などの救援活動や清掃、防疫活動、避難所運営の協力をします。

地区本部の設置
地域会館などを拠点として、町の災害対策本部と連携をはかりましょう。

5 地震から身を守る

「冷静」に「あわてず」に行動しましょう

地震発生時の行動
大規模な地震が発生した時に、冷静に判断し行動することは難しいものです。あわてずに落ち着いて行動するために、地震発生時の行動パターンを覚えておきましょう。

時間経過別行動のポイント

地震発生直後（地震発生～1分）
大きな揺れを感じたら、まず落ち着いて身の安全を確保し、揺れがおさまるまで待ちましょう。あわてて外に飛び出さないようにしましょう。

- 机やテーブルの下などに身をかくす
- ※倒れてくる家具や落下物に注意する
- 座布団やクッション、雑誌などで頭を保護する
- 家具やガラス面から離れる
- 使用中の火気は素早く火を消す
- ※揺れが激しいときは無理せず、大揺れがおさまってから火を消す
- 家族間で声を掛け合う

1分 → 揺れがおさまったら（1分～2分）
火災の発生を防止し、家族の安全を確保しましょう。

- 台所やストープなどの火の元を確認する。出火したら大声で知らせ初期消火
- 家族の安全を確認する
- ガラスの破片などから足を守るため靴をはく
- ドアや窓を開けて、出口を確保する
- ※津波やけがれが予測される地域はすぐに避難する

3分 → 家族の無事を確認したら（3分～5分）
みんなの無事を確認し、火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声を掛け合い、みんなで安全を確認する
- ※ひとり暮らしの高齢者などいる世帯には積極的に声をかける
- 火災が発生したら、大声を掛け合いみんなで初期消火
- 余震に注意する

5分 → 隣近所の無事を確認したら（5分～10分）
ラジオなどから正しい情報入手して、デマに惑わされない

- ※NHK・民放のほかにコミュニティ放送（FM 湘南ナバサ：FM78.3MHz など）でも災害情報を聞くことができます。
- ガス栓をしめ、電気のブレーカーを切る
- 避難準備をする
- ※避難には原則として車は使用しない。徒歩で避難しましょう
- 家屋の倒壊や延焼火災などの危険があれば避難する

10分 → 協力して消火、救出・救助活動（10分～）

- 避難後は、みんなで協力して消火、救出・救助活動
- 災害情報や被害情報を収集する

6 津波から身を守る

「あわてず」に「直ちに高台」に避難

津波は地震発生後、あっという間にやってくる場合があります。海岸や海岸周辺、河川の河口付近では、強い地震や長い時間の揺れを感じたら、津波警報の有無に関わらず、直ちに高台など安全な場所に避難しましょう。

津波に対する心得

海岸近くで地震を感じたら直ちに避難
・強い地震（震度4程度以上）や長い時間の揺れを感じたら、直ちに高台などの安全な場所へ避難する。
・避難するときは、「より速く」よりも、「より高い」場所を目指して避難する。
・警報や注意報が解除されるまでは海岸に近づかない。
※荷物を取りに戻ったり、様子を見るために海岸へ近寄ってははいけません。

揺れが小さくても油断しない
・小さな揺れでも大きな津波になることもあるので、決して油断しない。

津波は繰り返し襲ってくる
・第1波よりも第2波、第3波の方が高くなる場合があります。
・2回、3回と繰り返し襲ってくる場合があります。

津波のスピード
・津波の伝わる速さは時速数百キロになる場合があり、津波が見えたらでは逃げきれません。

正しい情報で冷静を行動
・テレビやラジオ、防災無線などで正しい情報入手し、冷静な行動をとります。
・津波警報・注意報は、地震発生後約3分程度で発表されますが、津波はすぐにやってくることもあり、逃げるの時間との勝負です。津波警報や注意報の有無に関わらず、揺れを感じたら直ちに避難しましょう。
・いざという時に備えて、津波の時の避難先や避難経路を調べておきましょう。町では津波避難ビル・津波避難場所の指定を進めています。指定場所は大磯町ホームページで確認できます。

津波警報・注意報の種類

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合には、地震が発生してから約3分を目標に津波警報又は注意報を発表しています。

種類	解説	発表される津波の高さ
津波 大津波警報	高いところで3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。	3m、4m、6m、8m、10m以上
津波 津波警報	高いところで2m程度の津波が予想されますので、警戒してください。	1m、2m
津波 注意報	高いところで0.5m程度の津波が予想されますので、注意してください。	0.5m

防災無線放送

津波情報（津波警報、大津波警報）

▶ サイレン音 ▶ 「大津波（津波）警報が発令されました。海岸付近の方は高台に避難してください。」

※大津波警報のサイレン・・・（ウー）⇒ 3秒吹鳴 ⇒ 2秒休止
 ※津波警報のサイレン・・・（ウー）⇒ 5秒吹鳴 ⇒ 6秒休止
 サイレン音が聞こえたらすぐに高台に避難しましょう

7 風水害・土砂災害から身を守る

「風水害」から身を守る
台風や集中豪雨での被害は毎年起きています。まだまだ大丈夫だと思っても、急激に状況が変化する場合もあります。最近では短時間大雨が降るゲリラ豪雨も増えています。正しい情報を早めに入手し、すばやく行動しましょう。

雨の強さの目安

やや強い雨 雨量 10～20mm	強い雨 雨量 20～30mm	激しい雨 雨量 30～50mm	非常に激しい雨 雨量 50～80mm	猛烈な雨 雨量 80mm以上
---------------------	-------------------	--------------------	-----------------------	-------------------

サーズが降る。雨が話し声が良く聞けず、見えにくい。

どしゃ降り、側溝や下水があふれ、小さなけがれが発生。

バケツをひっくり返したような雨。けがれがひどくなりやすい。

雨のようになり、地下に水が流れ込む。土石流が起りやすい。

大規模な災害が発生する恐れが強い。厳重な警戒が必要。

大雨や洪水などに対する避難の心得

正確な情報収集とすばやく自主避難
・ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。
・雨の降り方や水の流れ、川の状況に危険を感じたら自主的に避難しましょう。
※避難所などに自主避難する際は、役場又は消防署に連絡してください。

足元や水深に注意
・長い棒を杖代わりにして、足元の安全を確認し、ロープでお互いを結んで避難しましょう。
・水深が腰まであるような場合は、無理せず2階などで救援を待ちましょう。

動きやすい服装で、2人以上で避難
・避難するときは、動きやすく安全な服装を心がけ、靴ひもをゆるめず履き直しましょう。
・避難するときは2人以上で行動してください。

高齢者などの避難に協力
・高齢者や子ども、病人の方は、早めの避難が必要です。高齢者は背負ったり、子どもには抱っこをせよとしたりして安全を確保しましょう。

土砂災害から身を守る
土砂災害（がけ崩れや土石流など）は、地表の土砂や岩が崩れ落ちること、地震や大雨、大雨などで地盤がゆるんだりして発生します。土砂災害の危険がせまったときは、すばやく避難することが大切です。テレビやラジオの気象情報や前兆現象などに注意し、少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう。

早めに避難する
土砂災害警戒情報が発せられたら早めに避難

気象情報・土砂災害警戒情報
雨が降り始めた。テレビやラジオ、インターネットなどにより、気象情報や土砂災害警戒情報の情報収集に心がけましょう。大雨による土砂災害の危険が高まったときには、土砂災害警戒情報が発せられます。

気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp>
 神奈川県ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp>

土砂災害の予兆・前兆現象

がけ崩れ
・がけに割れ目（亀裂）が見える。
・がけから小石がはらばらと落ちてくる。
・がけからの水が濁ったり、がけから水がふき出す。
・亀裂が広がり、ひび割れが生じる。
・がけから音がする。

土石流
・山崩り（うなるような音）や石のぶつかり合う音が聞こえる。
・雨降が続いているのに、川の水位が下がります。
・急に川が濁ったり、流木が漂ってくる。

4 東海地震に備える

東海地震に関連する情報

東海地震は、その発生切迫性が指摘されています。大磯町は東海地震に係る地震防災対策強化地域に指定されています。東海地震の観測データに明らかな変化が表れた場合には、気象庁から危険度に合わせて「東海地震に関連する情報」が発表されます。これらの情報は、テレビ、ラジオなどを通じて住民に伝えられます。

情報名	主な防災対応等
東海地震予知情報	警戒宣言発令 ●警戒宣言が発せられると ・津波やがけ崩れの危険地域からの住民避難や交通規制の実施などが行われます。 ※住民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、東海地震の発生に十分警戒して、「警戒宣言」及び町等の指示に従って行動してください。
東海地震注意情報	東海地震に対処するための次の「準備行動」が行われます ・必要に応じて、児童・生徒の帰宅等の安全確保対策が行われます。 ※住民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、国や町等からの呼びかけに従って行動してください。
東海地震に関連する調査情報（臨時）	防災対応は特にありません ・国や自治体等では情報収集体制がとられます。 ※住民の方は、テレビ・ラジオ等の最新の情報に注意し、平常通りお過ごしください。なお、防災無線での放送は行いません。

※各情報発表後、東海地震発生のおそれが無くなったと判断された場合は、その旨が各情報で発表されます。

8 非常時持出品

非常時持出品や備蓄品は、一度に持ち出せなくても構いません。状況に応じてあたら取り出すこともできます。電池の容量や消費期限など、いざという時のために定期的にチェックし新しい物と交換しましょう。下の表を参考に、家族全員で話し合い、準備しておきましょう。

一次持出品 男性15kg、女性10kgまでを目安にリュックサックなどに入れて準備しましょう。

- 非常食・水**
カンパンや缶詰、栄養補助食品など、そのまま食べられるもの
飲料水（ペットボトル）、缶切り、フォーク、スプーン、はしなど
- 携帯ラジオ**
小型で軽く、FMとAMの両方を聴けるもの。予備電池も忘れずに！
- 懐中電灯**
できれば一人にひとつ用意。予備電池や電池を用意！
- 貴重品**
現金（小銭も用意する）、預金通帳、身分証明書、健康保険証、運転免許証、印鑑、家や車の予備金
- 衣類**
下着、上着、靴下、タオルなど
- 救急医薬品**
絆創膏、ガーゼ、包帯、消毒液、胃腸薬、風邪薬、石けん
※持病のある方は常備薬を忘れずに！
- 生活用品**
トイレットペーパー、ニールン袋、レジャーシート、ろうそく、食品用ラップなど
- その他**
乳幼児がいる場合：粉ミルク、ほ乳びん、紙おむつ、離乳食、母子手帳、玩具
要介護者いる場合：おむつ、介護用品、入れ歯、化粧品、化粧品

二次持出品 ・・・ 救援物資が届くまでの数日間自活するためのもの

二次持出品とは、避難した後で少し余裕が出来たら安全を確認して自宅へ戻り、避難所へ持出したし、自宅で避難生活を送る上で必要なものです。
※できれば5日分程度を用意し、水や食料などは少し多めに準備しましょう。

- 食料**
簡単な調理やそのまま食べられるもの、各自の嗜好に照らして、5日分程度をしのぐ食料品を備えましょう。
缶詰やレトルト食品、カップめん、切りもち、米、ビスケット、キャンディ、チョコレートなど
- 水**
飲料水は大人1人1日3リットルが目安
生活用水の確保のため、風呂の水は抜かず、寝る前はポットに水を入れておく
- その他**
卓上コンロ、固形燃料、なべ、アルミホイール、予備のガスボンベは多めに用意
洗面用具、家族の写真（安否確認用）など
※ペットがいる場合：つなぎ糞、ゲージ、餌など

災害時に配慮を要する方の非常時持出品
病気や妊娠中の方、乳幼児や高齢者、障害者の方などはそれぞれ状態に応じたものを備えておくことが大切です。
地震発生から数日間は、個別のニーズに対応するきめ細かい生活支援は困難になります。服用する医薬品や病状メモ、介助する補具、おむつなどの衛生用品や消化しやすい非常食など、必要なものを用意しておきましょう。